



<ラムサール通信>

2019年3月20日発行 第194号

●第104回<ワイズユース>ワークショップのお知らせ●
「ベンガル湾と湿地パートナーシップ (KNCF 事業) 活動」
「ロヒンギャ難民キャンプの IUCN プロジェクト-象と共生する」

2016年から経団連自然保護基金の助成で3年計画で実施してきた「インド洋ベンガル湾岸諸国の湿地協力国際ネットワークの構築—地域住民の気候変動適応、減災、生物多様性保全に対するキャパシティビルディング」が今年3月末で終了するため、まとめの活動として、3月3～6日、バングラデシュのコックスバザールで、インド、タイ、ネパール、日本から地域住民や専門家を招いて、コミュニティシェアリング・ワークショップ(住民参加型「湿地の賢明な利用」調査・交流活動)を実施しました。さらに7日には首都ダッカで、地元バングラデシュはじめスリランカ、インド、ミャンマー、タイ、ネパール、韓国、日本の8か国45人が参加した国際シンポジウム「ベンガル湾岸の湿地保全」を開催。日本からは島谷幸宏(九州大学)、古田尚也(大正大学)、新井卓治(日本マレーシア協会)、長倉恵美子(WIJ)、武者孝幸(RCJ)、中村玲子(RCJ)のみなさんが参加しました。

この報告会を、下記日時で、古田先生の大正大学地域構想研究所のセミナースペースを使わせていただき開催します。特別報告として、ミャンマーからバングラデシュに越境して難民となったロヒンギャのキャンプで、IUCN が子どもたちにおこなっている「象と共生する環境教育プログラム」を、日本人としては初めて視察した古田先生が貴重な動画映像、写真とともにレポートします。「なぜキャンプで象？」か、ご期待ください。

久しぶりのワークショップです。金曜日の夜ですが、どうぞお集まりください。

第104回<ワイズユース>ワークショップ
「ベンガル湾と湿地パートナーシップ活動報告会」

日時：2019年4月19日(金) 午後6時30分～8時30分

場所：大正大学地域構想研究所 3Fセミナースペース

東京都北区滝野川 6-2-3 <https://chikouken.jp/about/access/>

都営三田線西巣鴨駅から徒歩2分/JR 埼京線板橋駅東口から徒歩10分

参加費：一般：2000円 会員・学生：1000円

プログラム(予定)

1. 第2回コミュニティシェアリング・ワークショップ報告 中村玲子(RCJ)
2. 国際シンポジウム「ベンガル湾岸の湿地保全」報告 長倉恵美子(WIJ)
3. 特別報告：「ロヒンギャの難民キャンプにおける環境教育プログラム—IUCN バングラデシュの活動」 古田尚也(大正大学教授、IUCN リエゾンオフィサー)
4. シンポジウム参加者から 新井卓治(日本マレーシア協会)、武者孝幸(RCJ)
5. 討議：これからの BoBWeT 活動の方向性について モデレーター：岩崎慎平(RCJ 会長)

※終了後はいつものように懇親会です。

●「KODOMOラムサールin南三陸」報告●

2月9日～11日に、ラムサール条約登録湿地「志津川湾」のある宮城県南三陸町で「KODOMO ラムサールin 南三陸町」が開催されました。クッチャロ湖、釧路湿原、蕪栗沼・化女沼、谷津干潟、藤前干潟、琵琶湖、円山川、荒尾干潟の9湿地から23人、地元の南三陸町から9人、あわせて32人が集まり、町と漁業組合、企業・団体・市民、志津川高校など地元のみなさんの協力で町の宝を探しました。

志津川湾は2018年10月、ドバイのCOP13で登録されたばかりです。暖流と寒流が交わる三陸海岸にあって、寒流のマコンブと暖流のアラメの両方が生息する豊かな藻場が広がり、絶滅危惧種のコクガンの越冬地でも知られています。また、養殖業のASC認証(Aquaculture Stewardship Council)と、林業のFSC認証(Forest Stewardship Council)の両方を取得していて、これは世界でも南三陸町だけだそうです。

9日は小雪が舞うなかで、海では漁組の方から海藻について説明を受けてから4種類の海藻を探し、採取してきた海藻で押し葉を作りました。この海藻押し葉は修了書に貼り付けられました。

10日は快晴でしたがとても寒い早朝からコクガンを観察しました。その後、養殖についての工夫や東日本大震災前と現在の養殖業の違いを聞き、実際に漁船に乗って、牡蠣の養殖いかだやワカメを見せてもらいました。昼食は志津川湾の恵みの牡蠣、ホタテ、ひじき、さっきとってきたワカメをその場で茹でていただきました。

午後からは山へ行き、なぜ森が人の手が管理されることが必要なのか、木を切ることのメリットとデメリットを学び、間伐を実際に体験しました。寒かったのですが子どもたちは汗だくになって楽しそうでした。町に戻ってからは上の山八幡宮で津波と南三陸町の歴史について話を聞き、三陸地方の伝統文化のきりこ(縁起物を半紙を切って表現した神棚飾り)作りに挑戦しました。

最終日の会議は町民に公開され、地元の多くの方々が見に来てくれました。宝選びは、いつもより複雑な発見が多く、選出がむずかしかったようで、順位決めもいつも以上に白熱しました。子どもたちが選んだメッセージと6つの宝は次のとおりです。

メッセージ： 人々の守ってきた宝、世界にとどけ！いつまで「藻」

6つの宝： ASCとFSC、海と山の関係性、しんさいから復興する願いや強い心、人のやさしさ、コクガンなどの生きもの、きりこ

<レポート：佐々木優>



志津川高校生物部ボランティアの協力を得て海藻採取



活発に意見を発表する子どもたち

●2019年度の会費の納入をお願いします●

ラムサールセンター会員みなさん、新年度が近づきましたので、会費(年8000円)の納入をお願いします。RCJの登録会員数は現在110人ですが、2018年度の会費を納めた方は3月20日現在58人で納入率は52.5%。昨年の30%よりは改善しましたが、目標の70%にはまだまだ届きません。大きな活動資金をもたないボランティア団体であるRCJの活動の根元を支えるのは、活動に賛同する個人の方からの会費です。

ご協力をお願いします。なお、2018年度の会費を納めたかどうかわからない方は、メールまたはファクスでお問い合わせください。新しく会員になってくださる方、大歓迎です。事務局までご連絡ください。

●振り込み先は、以下へお願いします。

<ゆうちょ銀行口座>

口座番号：10130-51577221 名義：ラムサールセンター

・他の金融機関からの場合

店名〇一八(ゼロイチハチ) 店番018 普通預金 口座番号5157722

<三井住友銀行口座>

下丸子(しもまるこ) 支店(810) 普通預金口座：0684084

名義：ラムサールセンター事務局長 中村玲子

※ 郵便振替口座は閉鎖しました。

※ 現金書留でもお受けします。請求書、領収書の必要な方はご連絡ください。

●会員拠出金へのご協力者を募ります●

昨年5月12日の第28回総会で確認されたRCJの財政健全化に向けての提言を受けて、短期借入金の返済と会員拠出金制度の見直し、拡充をおこないましたのでご報告します。

RCJの短期借入金は、第28期(2017年度)決算時に累積で370万円ありましたが、2018年12月までにそのうち200万円を返済し、残りの170万円を融資者のご協力によって、会員拠出金(資本金)に振り替えることができました。したがって2018年12月現在で、RCJ会計は負債がゼロとなり、会員拠出金(資本金)としては485万円が計上されました。ありがとうございました。

しかし、これは帳簿上の数字で、借入金を返済したこともあってキャッシュフローは逆に厳しくなり、現状、日常活動を遂行するための現金が不足し、動きがとれなくなっています。

会員拠出金制度は、任意のボランティア団体であるRCJの基礎的活動の維持・存続のために、2002年度に設置された活動資金協力制度です。昨年の制度見直しにより、1口5万円で何口でも協力でき、受け付けは随時、協力者からとくに申し出がない限り、年度末に自動更新とすることになりました。

会員拠出金は、RCJの活動方針を是とし、それを遂行するためのいわば「出資金」で、協力者は株式会社でいえば株主のようなもの。運動に主体的に参加し、自立して活動し、真のボランティア団体としてRCJを存続させるために、会費とならぶ貴重な資金源です。改めて出資、協力会員を募ります。

会員拠出金のガイドラインは以下のとおりです。協力の意思のある方は、事務局までご連絡ください。

①1口5万円で、1人何口でも受け付けます。

②受け付けは随時、年度末に自動更新されますが、申し出があれば返金されます。

③申し出があれば、年度途中でも解約に応じます。

ベンガル湾と湿地パートナーシップ（KNCF 事業）の活動(2019 年 3 月)から



コミュニティ・シェアリングで、テクナフの漁業者に、衛生的な干物づくりを説明するオディッシャの漁業者。ベンガル語と、オディッシャのオリヤ語は共通点が多く、通訳なしでも話が通じる。



テクナフの漁船に乗り、地球環境基金事業で導入された適正目合いのコットン漁網を手にするオディッシャの漁業者。コットン漁網には基金ちゃんマークが。



交流ワークショップの参加者全員による記念撮影。テクナフ海岸にて